

平成 22 年 6 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006 ～ 2009  
 課題番号：18520360  
 研究課題名（和文） 『方言文法全国地図』データ解析プログラムによる西日本方言の言語層位学的研究  
 研究課題名（英文） A Study of the Formation of the Western Dialects of Japanese Using the Computer Program for Analysis of the Linguistic Data in the Grammar Atlas of Japan (GAJ)  
 研究代表者 高橋 顕志 (TAKAHASHI KENJI)  
 群馬県立女子大学・文学部・教授  
 研究者番号：10137317

研究成果の概要（和文）：国立国語研究所が長年の歳月をかけて収集し公刊した『方言文法全国地図』は、解釈地図としてではなく資料地図として公開されたにもかかわらず、膨大なデータ量、また公開方法の複雑さなどから、それを利用した研究が十分に進んでいないのが現状であった。本研究では、WEB 上に公開されている当該データを加工し、瞬時に各種分布図を作成していくコンピュータプログラムを開発し、さらに、作成された分布図を比較検討することにより、ことに西日本における方言の層位の重なりから、日本語の成立過程について新たな知見を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：The Grammar Atlas of Japan (GAJ), compiled and published by the National Institute for Japanese Language and Linguistics, contains a large number of linguistic data of Japanese dialects, focusing on the grammatical items. Every maps in GAJ are intended to show the forms observed in each area, rather than to present the editors' interpretations on the distribution of the grammatical forms, and GAJ can be used as a data source of the grammatical forms of Japanese dialects. In fact, it is difficult to use it as a data source because there are too many data in GAJ and the distinctions of variants are too detailed. In order to solve this problem, we added some modifications to the data in GAJ and made a program which enables us to make distribution maps automatically. We made detailed comparisons among maps made by this program and found some facts which are important to consider the formation of the Western dialects of Japanese.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,100,000	0	1,100,000
2007 年度	600,000	180,000	780,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,000,000	570,000	3,570,000

研究分野：言語地理学

科研費の分科・細目：人文学・言語学・日本語学

キーワード：方言学、言語地図、方言分布、言語層位学、方言文法、方言分布、日本語史

## 1. 研究開始当初の背景

『方言文法全国地図』（国立国語研究所刊）は、解釈地図としてではなく、資料地図として公開されたにもかかわらず、膨大なデータ量、また公開方法の不統一さなどから、それを資料として利用した研究が充分に進んでいないのが現状であった。

研究代表者は、PCを用いた全国大規模言語地図調査・作成システム（Sugdás）を開発し、そのシステムによる言語調査を、すでに28次にわたって行い、10000葉を超える言語地図を作成し、Web上に公開し、またCD-ROMとして公表していた。

このシステムで利用している地点番号メッシュは、『方言文法全国地図』で採用されている地点番号メッシュに準拠しており、公開されている『方言文法全国地図』データは、コンバートプログラムを開発すれば、すぐにこのシステムのデータとして使用でき、それが作成する地図の一種「縮小全国地図」にそれらの分布を表示することが可能である。

国立国語研究所の主導のもと、全国の研究者達によって収集された、質の高い貴重な『方言文法全国地図』の元データを充分に使いつけるための、かつ文科系人間にとっても使いやすい、地図作成プログラムが求められていた。

もちろん言語地図作成は言語地理学の究極の目的ではない。地図を作成することはただの手段にすぎず、作成された地図から何を

読み取るか、何が読み取られるかが問題となる。このことに関して、日本においては『蝸牛考』において柳田国男が提唱した「方言周圏論」が地図の解釈原理として主流を占め、その具体的現れである「幾重にも重なる同心円の分布」が求められ続けた。しかし、『日本言語地図』にも、そして今回の『方言文法全国地図』にも、同心円はほとんど認められない。

このことは従来の日本の言語地理学が見渡そうとした視程が、ややもすると狭すぎるのではないかとの疑念を抱かせる。

『方言文法全国地図 解説1』には次のような記述があり、このことに関わる国立国語研究所の見解が示されている。

「文法事象の言語地理学的解釈については、方法論的に未解決の部分が大きく、慎重な検討が必要である・・・」

このことから、国立国語研究所が収集した『方言文法全国地図』データは、この国の言語形成史を読み解くために、さらに多くの研究者の目で詳細に検討され、「方言周圏論」に変わる新しい解釈原則を見出すための研究が必要である。

## 2. 研究の目的

国立国語研究所がWeb上に公開している『方言文法全国地図（GAJ）』データの各項目において、任意の必要形式ごとに分布図を作成するプログラム（GAJ-Sugdás）を開発・

整備する。

それによって作成される言語地図一枚一枚には、新旧の言語地層が、路頭として姿を現わしていると見る立場から、それらを各露頭の広狭・重なりに注目しながら並べ替えていき、(本研究では) ことに、西日本における言語地層の重なりを解析・推定し、西日本方言層位モデルを構想する。

### 3. 研究の方法

#### (1) Web データの加工

Web 上に公開されている『方言文法全国地図』データは、回答された言語形式の一覧である「凡例データ」と、その形式を使用する地点番号が書き込まれた「地点番号データ」とが、「各巻」を単位として項目番号順に書き込まれた形で公開されている。これを全国大規模言語地図調査・作成システム (Sugdass) 上で処理するためには、それらを項目番号ごとに切り分け、また、さらに項目番号ごとに「凡例データ」と「地点番号データ」とを合成し、項目番号ごとに完結した「項目番号ごとファイル」を作成しなければならない (コンバートプログラム)。

Web における公開方法の微妙な違いから、この作業は『方言文法全国地図 全6巻』の各巻ごとに行われる必要があり、あわせて6本のプログラムが必要となる。

#### (2) 地図化プログラムの作成

そのようにして出来上がった「項目番号ごとファイル」を利用して分布図を作成するために、現 Sugdass のメインプログラムを改定して、凡例を表示し必要形式をクリックする部分、画面に作成される分布図をプリントアウトさせる部分、同時に、地図化されている言語形式の一覧表をプリントアウトさせる部分などが必要となる (地図化プログラム)。

#### (3) 分布図の作成・解釈

上記の作業が終了した各巻各項目から逐次分布図作成とその解釈の作業に入る。

作成された分布図一枚一枚には、新旧の言語地層の露頭が表現される。これらを分布の広狭・重なりなどに注目しながら、ことに、西日本を中心としての解析作業が進められ、その分布の複雑さから、いまだ明確に提示されていない西日本方言層位モデルを構築しようと努め、日本列島の言語史の一端を解明しようとする。

### 4. 研究成果

各種 PC プログラムについては予定していたものすべてが完了した。

それを用い、『方言文法全国地図』第1巻～第6巻の全データを語形ごとに分布図化する (全 53,502 葉) ことができ、資料集として、15冊に及ぶ『「方言文法全国地図」語形ごと BMP 地図集成』を作成することができた。これは、露頭としての新旧の言語地層を総覧する地図であると言って良い。今後、他の研究者からの利用が期待される。将来的には CD-ROM として公表することを考えている。

これら各露頭の広狭・重なりに注目しながら並べ替え、西日本における言語地層の重なりを解析・推定していくことに関しては、充分と言えないまでも解釈が進み、その一端は論文として発表された。ただ、膨大なデータ量ゆえ、これらひとつひとつを見通し、見渡ししながら並べ替えていく作業は果てしなく続きそうである。

西日本だけでなく、東日本も含めた大きな視野を持った研究の必要性が明らかとなってきた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 井上文子、「特集 変容する日本のことば 関西における方言と共通語」、『言語』 38-7、大修館書店、2009年7月1日、pp. 49-57
- ② 井上文子、「特集 日本語はここまでわかった【方言】 方言文法について」、『日本語学』 27-12、明治書院、2008年10月10日、pp. 52-63
- ③ 井上文子、「アスペクトとその分布—(オル)系統の多様性—」、『日本語学 9月臨時増刊号 方言文法全国地図をめぐる』 26-11、明治書院、2007年9月15日、pp. 120-130
- ④ 高橋顕志、「方言伝播アニメーションの試み—『方言文法全国地図』データを利用して—」、『日本語学 9月臨時増刊号 方言文法全国地図をめぐる』 26-11、明治書院、2007年9月15日、pp. 198-204
- ⑤ 井上文子、「散っている[進行・結果]」、『言語』 35-12、大修館書店、2006年12月1日、pp. 56-59

[図書] (計18件)

- ①~⑮ 「方言文法全国地図」語形ごと BMP 地図集成、2010、1658、私家版、高橋顕志
- ⑯ 日本語方言の層位 —2008—、2009、120、私家版、高橋顕志
- ⑰ 日本語方言の層位 —2007—、2008、221、私家版、高橋顕志
- ⑱ 日本語方言の層位 —2006—、2007、304、私家版、高橋顕志

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 顕志 (TAKAHASHI KENJI)

群馬県立女子大学・文学部・教授

研究者番号：10137317

### (2) 研究分担者

井上 文子 (INOUE FUMIKO)

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授

研究者番号：90263186